

「やまの健康」・「森林づくり」への取組についての アンケート結果

滋賀県では、平成18年4月に導入した「琵琶湖森林づくり県民税」を活用しながら、「琵琶湖と人々の暮らしを支える森林づくり」を基本方向とする施策に取り組んでいるところです。

また、令和元年度からは、森林・林業・農山村（＝「やま」と称しています。）を一体的に捉え、農山村の価値や魅力に焦点を当て、地域資源を活かして農山村の活性化を図る「やまの健康」推進プロジェクトを実施しています。

皆さまからの声をお聴かせいただき施策に関する基礎資料を作成することを目的として、アンケート調査を実施しました。

<参考URL>

・滋賀県森林政策課「やまの健康」ホームページ

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kankyoshizen/shinrinhozen/310074.html>

★調査時期：令和3年10月

★対象者：県政モニター298人

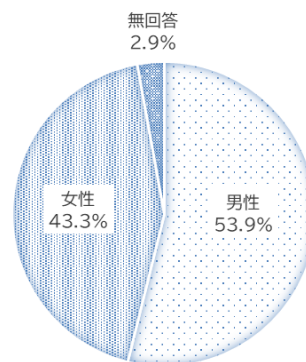
★回答数：245人（回収率82.2%）

★担当課：琵琶湖環境部 森林政策課

【属性】

◆性別

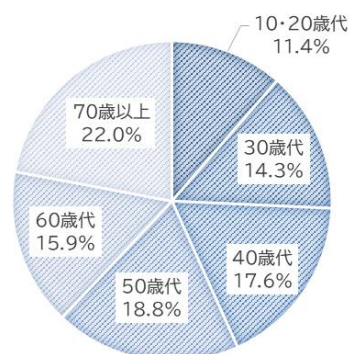
項目	人数（人）	割合
男性	132	53.9%
女性	106	43.3%
無回答	7	2.9%
合計	245	100%



【n=245】

◆年代

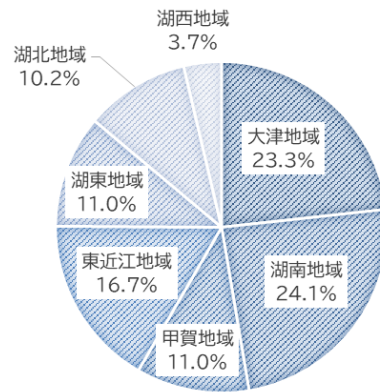
項目	人数（人）	割合
10・20歳代	28	11.4%
30歳代	35	14.3%
40歳代	43	17.6%
50歳代	46	18.8%
60歳代	39	15.9%
70歳以上	54	22.0%
合計	245	100%



【n=245】

◆地域

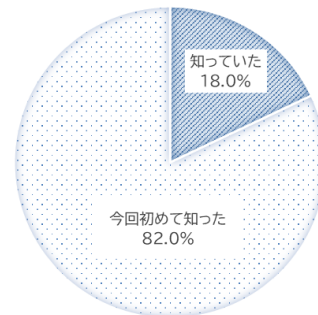
項目	人数(人)	割合
大津地域	57	23.3%
湖南地域	59	24.1%
甲賀地域	27	11.0%
東近江地域	41	16.7%
湖東地域	27	11.0%
湖北地域	25	10.2%
湖西地域	9	3.7%
合計	245	100%



【n=245】

問1 あなたは、「やまの健康」という言葉を知っていましたか。(回答チェックは1つだけ)

項目	人数(人)	割合
知っていた	44	18.0%
今回初めて知った	201	82.0%
合計	245	100%



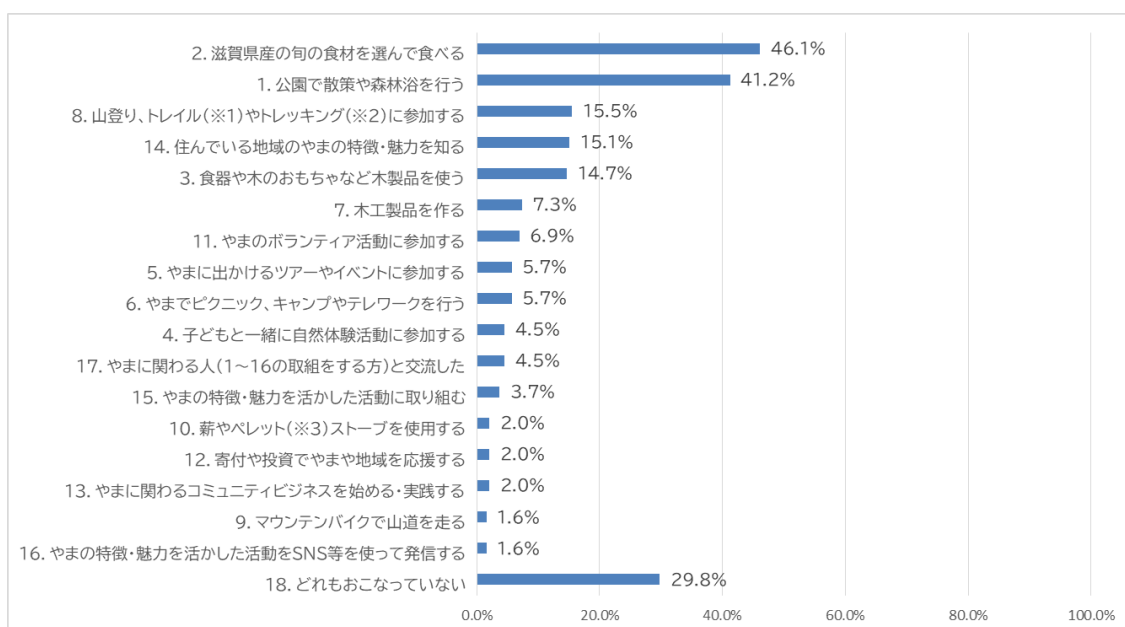
【n=245】

※「やまの健康」推進プロジェクト・・・森林・林業・農山村(＝「やま」)を一体的に捉え、森林・農地が適正に管理され、多面的機能が持続的に発揮される姿(＝やまを健康に)。自然からの豊かな恵みを持続的に享受することで、農山村と都市において、自然と共生する健康で幸せな暮らしを送っている姿(＝やまで健康に)を目指したプロジェクト。令和元年度から滋賀県が取り組む。

問2 「やま」に関わる以下の項目について、最近1年間に体験した、実施した項目を選択してください。

(「18 どれもおこなっていない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも)

項目	人数(人)	割合
2 滋賀県産の旬の食材を選んで食べる	113	46.1%
1 公園で散策や森林浴を行う	101	41.2%
8 山登り、トレイル(※1)やトレッキング(※2)に参加する	38	15.5%
14 住んでいる地域のやまの特徴・魅力を知る	37	15.1%
3 食器や木のおもちゃなど木製品を使う	36	14.7%
7 木工製品を作る	18	7.3%
11 やまのボランティア活動に参加する	17	6.9%
5 やまに出かけるツアーやイベントに参加する	14	5.7%
6 やまでピクニック、キャンプやテレワークを行う	14	5.7%
17 やまに関わる人(1~16の取組をする方)と交流した	11	4.5%
4 子どもと一緒に自然体験活動に参加する	11	4.5%
15 やまの特徴・魅力を活かした活動に取り組む	9	3.7%
10 薪やペレット(※3)ストーブを使用する	5	2.0%
12 寄付や投資でやまや地域を応援する	5	2.0%
13 やまに関わるコミュニティビジネスを始める・実践する	5	2.0%
16 やまの特徴・魅力を活かした活動をSNS等を使って発信する	4	1.6%
9 マウンテンバイクで山道を走る	4	1.6%
18 どれもおこなっていない	73	29.8%



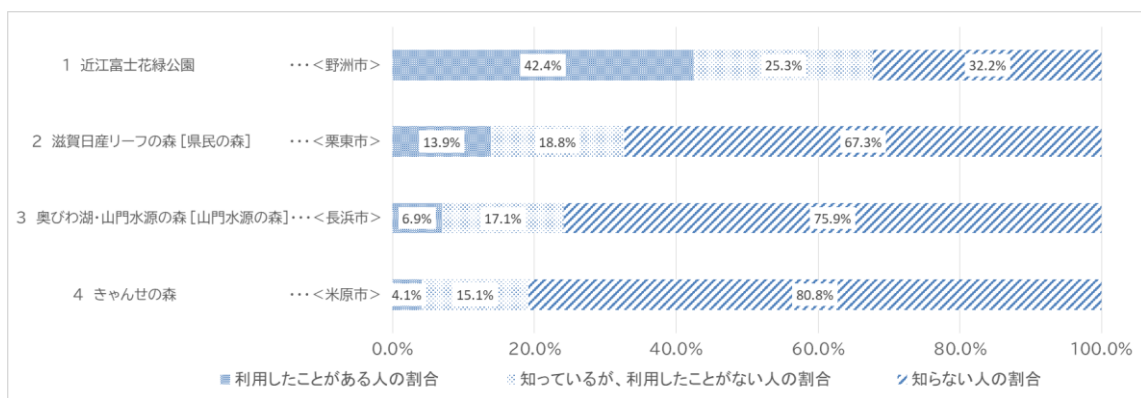
- ※1 トレイル・・・森林などの自然にある、舗装されていない道を歩くこと。走る場合にはトレイルランニング。宿泊を伴い、数十キロを歩く時はロングトレイルという。
- ※2 トレッキング・・・山の頂上を目指すことを目的とせず山を歩くこと。
- ※3 ペレット・・・木材加工時に発生するおが粉等を圧縮形成した燃料のこと。

問3 問2の「1 公園で散策や森林浴を行う」に関係しておたずねします。

県では、県民の皆さんに保健休養やレクリエーションの場として県営森林公園を管理しています。県立森林公園の利用について、以下の項目から選択してください。

(施設ごとに1つチェック)

項 目	利用したことがある人数(人) /割合	知っているが、 利用したことが ない人数(人) /割合	知らない人数 (人) /割合
1 近江富士花緑公園 ・・・<野洲市>	104 (42.4%)	62 (25.3%)	79 (32.2%)
2 滋賀日産リーフの森 [県民の森] ・・・<栗東市>	34 (13.9%)	46 (18.8%)	165 (67.3%)
3 奥びわ湖・山門水源の森 [山門水源の森]・・・<長浜市>	17 (6.9%)	42 (17.1%)	186 (75.9%)
4 きゃんせの森 ・・・<米原市>	10 (4.1%)	37 (15.1%)	198 (80.8%)



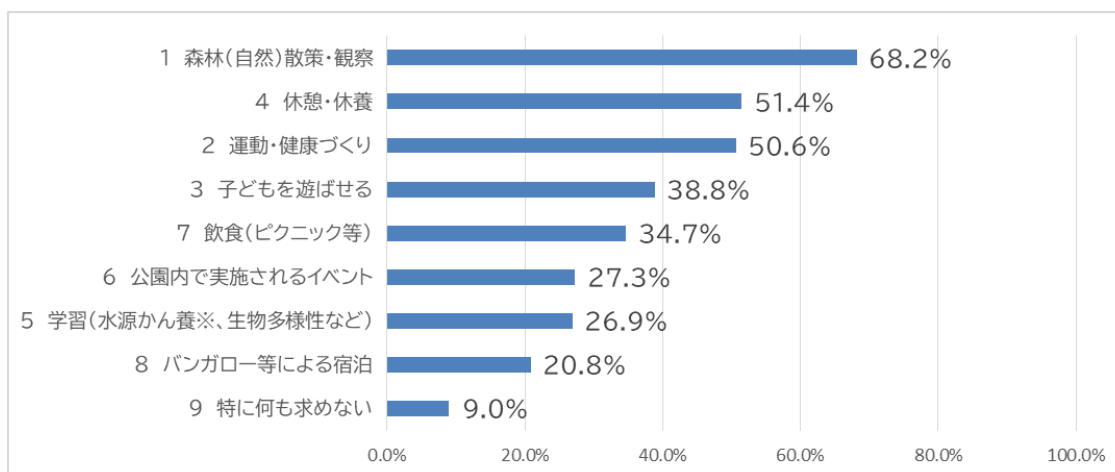
【n=245】

問4 問3に関係しておたずねします。

コロナ禍において、屋外で3密になりにくい公園の活用が注目されていますが、県営森林公園に求めるものを以下の項目から選択してください。

(「9. 特に何も求めない」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも)

項目	人数(人)	割合
1 森林(自然)散策・観察	167	68.2%
4 休憩・休養	126	51.4%
2 運動・健康づくり	124	50.6%
3 子どもを遊ばせる	95	38.8%
7 飲食(ピクニック等)	85	34.7%
6 公園内で実施されるイベント	67	27.3%
5 学習(水源かん養※、生物多様性など)	66	26.9%
8 バンガロー等による宿泊	51	20.8%
9 特に何も求めない	22	9.0%



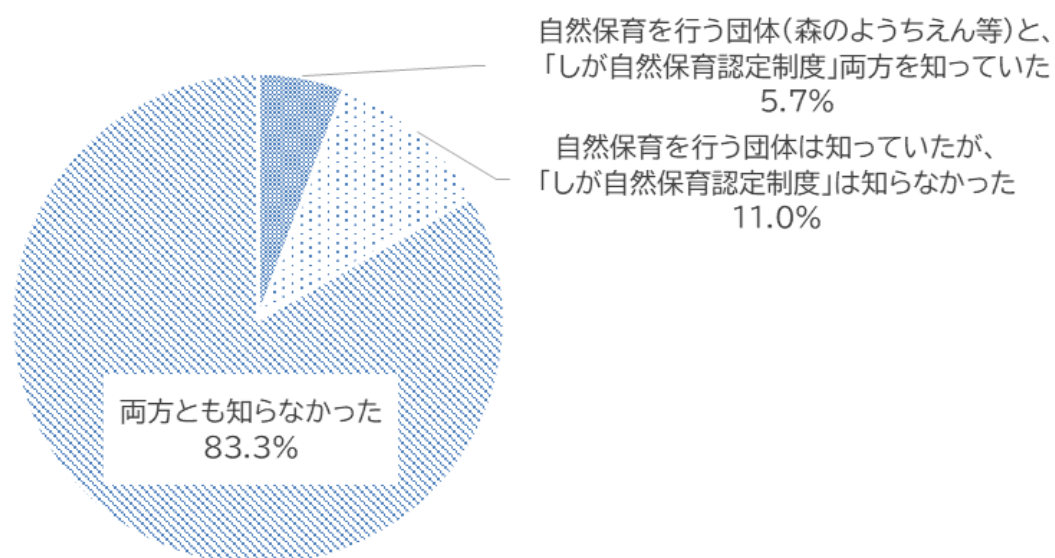
※水源かん養・・・森林の土壌が、降水を貯留、河川への流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能。

問5 問2の「4 子どもと一緒に自然体験活動に参加する」に関しておたずねします。

県では、自然体験活動を通して子どもたちの豊かな人間性を育むことなどを目指した、自然保育を行う団体（森のようちえん等）を支援しており、令和2年度からは、自然保育を行う団体を認定する「しが自然保育認定制度」を創設しました。県内で実施している自然保育について、知っている項目を選択してください。

（回答チェックは1つだけ）

項 目	人数（人）	割合
自然保育を行う団体（森のようちえん等）と、「しが自然保育認定制度」両方を知っていた	14	5.7%
自然保育を行う団体は知っていたが、「しが自然保育認定制度」は知らなかった	27	11.0%
両方とも知らなかった	204	83.3%
合計	245	100%

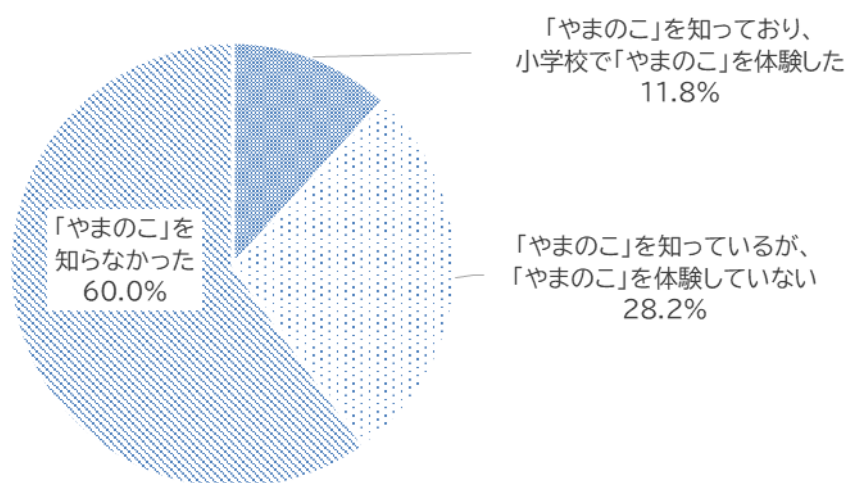


【n=245】

問6 問5に関係しておたずねします。

県では、次代を担う子どもたちが、森林への理解と関心を深めるとともに、人と豊かに
かかわる力をはぐくむため、学校教育の一環として、すべての小学4年生を対象に、森
林環境学習「やまのこ」事業を実施しています。「やまのこ」について、以下の項目か
ら選択してください。 (回答チェックは1つだけ)

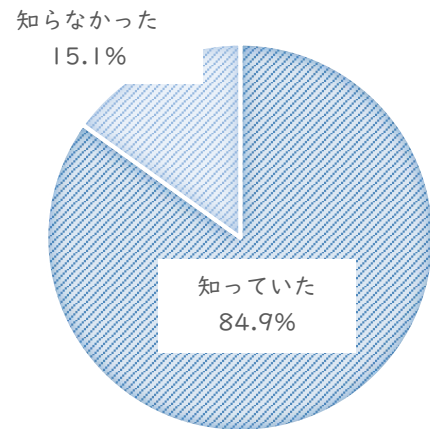
項 目	人数 (人)	割合
「やまのこ」を知っており、 小学校で「やまのこ」を体験した	29	11.8%
「やまのこ」を知っているが、 「やまのこ」を体験していない	69	28.2%
「やまのこ」を知らなかった	147	60.0%
合計	245	100%



【n=245】

問7 森林は、環境の保全や土砂災害の防止、水を蓄えたり、地球温暖化を防止するなどの様々な公益的機能により、私たちの暮らしを支えています。あなたはこのことについて知っていましたか。
(回答チェックは1つだけ)

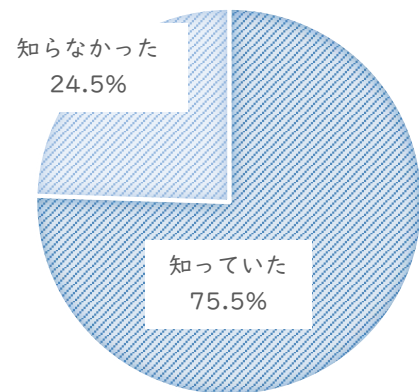
項目	人数(人)	割合
知っていた	208	84.9%
知らなかった	37	15.1%
合計	245	100%



【n=245】

問8 近年、林業生産活動の低迷等により、森林所有者による森林の手入れ不足などが原因で荒廃し、森林のもつ様々な公益的機能が低下することが心配されています。あなたはこのことについて知っていましたか。
(回答チェックは1つだけ)

項目	人数(人)	割合
知っていた	185	75.5%
知らなかった	60	24.5%
合計	245	100%

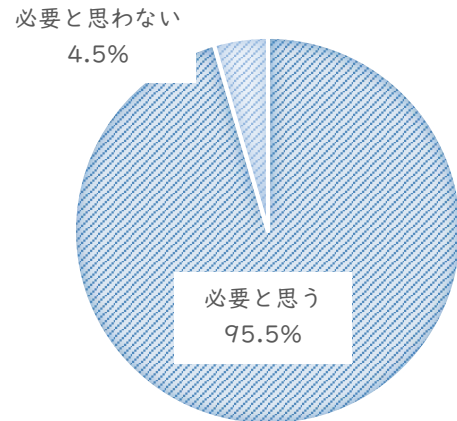


【n=245】

問9 森林を健全な姿で未来へ引き継ぐことについて、必要と思いますか。

(回答チェックは1つだけ)

項目	人数(人)	割合
必要と思う	234	95.5%
必要と思わない	11	4.5%
合計	245	100%

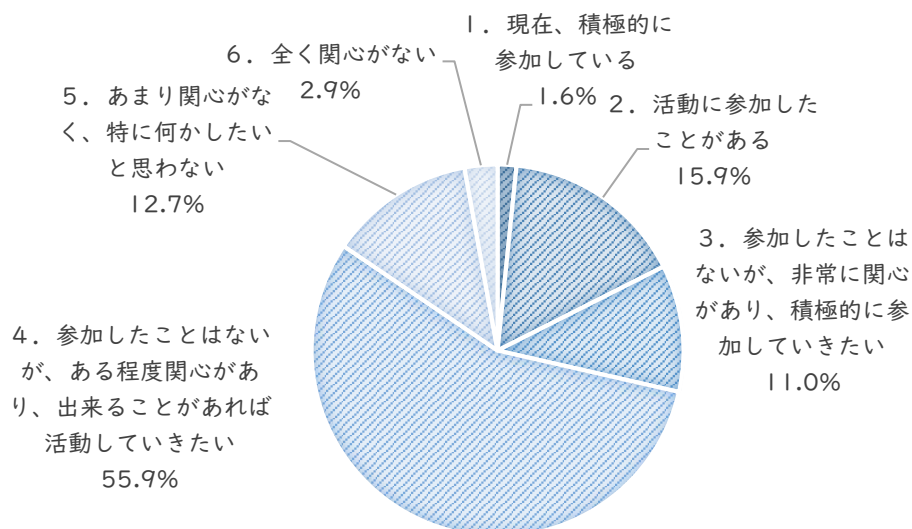


【n=245】

問10 あなたは、森林づくり活動^{*1}にどのくらい参加または関心をお持ちですか。

(回答チェックは1つだけ)

項目	人数(人)	割合
1. 現在、積極的に参加している	4	1.6%
2. 活動に参加したことがある	39	15.9%
3. 参加したことはないが、非常に関心があり、積極的に参加していきたい	27	11.0%
4. 参加したことはないが、ある程度関心があり、出来ることがあれば活動していきたい	137	55.9%
5. あまり関心がなく、特に何かしたいと思わない	31	12.7%
6. 全く関心がない	7	2.9%
合計	245	100%



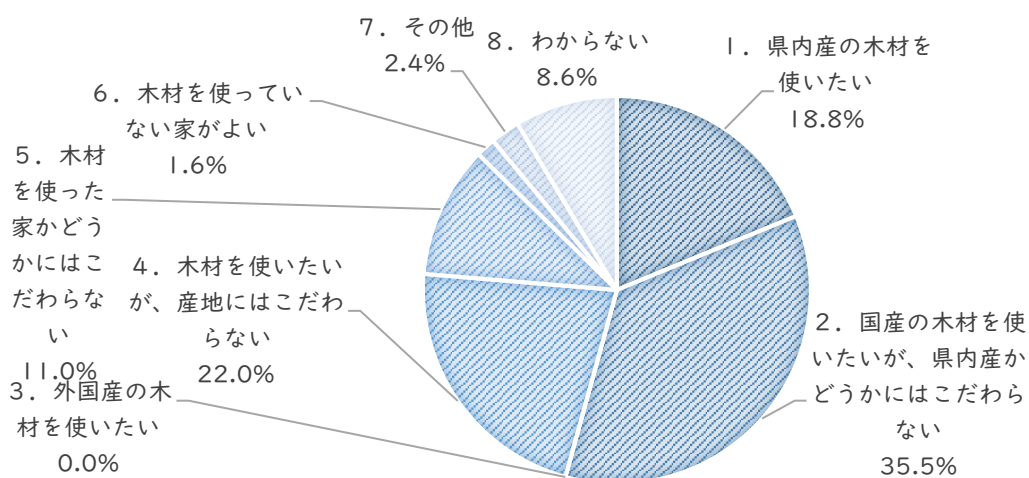
【n=245】

※1 森林づくり活動…植林、間伐（混み合った木の間引き）、里山整備、竹林整備など

問11 あなたが、もし家(マンションなどを含む)を建てる(購入する)としたら、構造や内装などに木材を使うことについて、最も近い考え方は次のどれですか。

(回答チェックは1つだけ)

項目	人数(人)	割合
1. 県内産の木材を使いたい	46	18.8%
2. 国産の木材を使いたい、県内産かどうかにはこだわらない	87	35.5%
3. 外国産の木材を使いたい	0	0.0%
4. 木材を使いたい、産地にはこだわらない	54	22.0%
5. 木材を使った家かどうかにはこだわらない	27	11.0%
6. 木材を使っていない家が良い	4	1.6%
7. その他	6	2.4%
8. わからない	21	8.6%
合計	245	100%

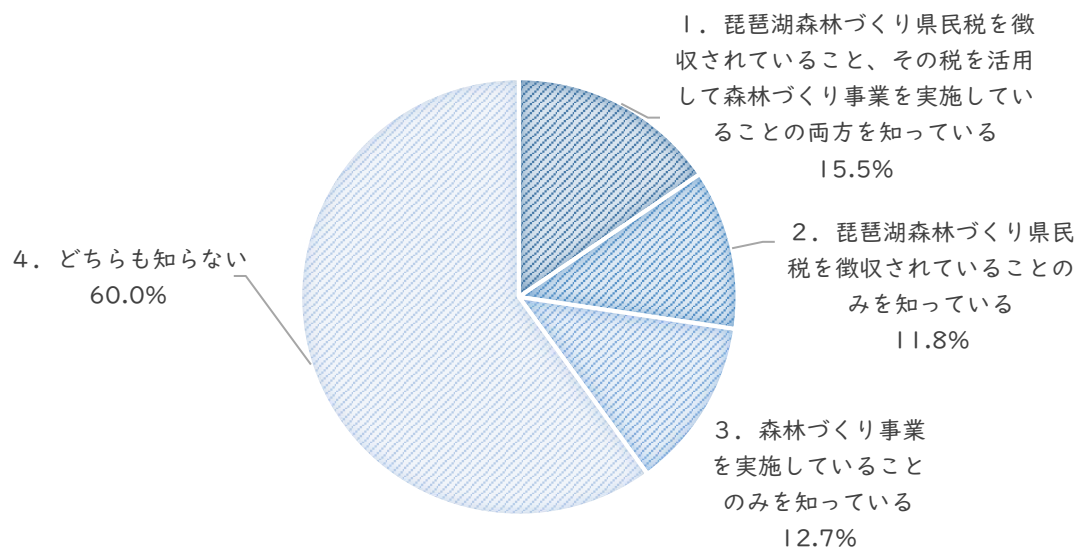


【n=245】

問 12 滋賀県では、平成18年度から、住民税に上乗せする形で県民の皆さまから「琵琶湖森林づくり県民税」をいただき、「環境重視」と「県民協働」の視点に立った森林づくり事業に取り組んでいます。このことについて、あなたは、どの程度ご存じですか。

(回答チェックは1つだけ)

項 目	人数(人)	割合
1. 琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていること、その税を活用して森林づくり事業を実施していることの両方を知っている	38	15.5%
2. 琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていることのみを知っている	29	11.8%
3. 森林づくり事業を実施していることのみを知っている	31	12.7%
4. どちらも知らない	147	60.0%
合計	245	100%



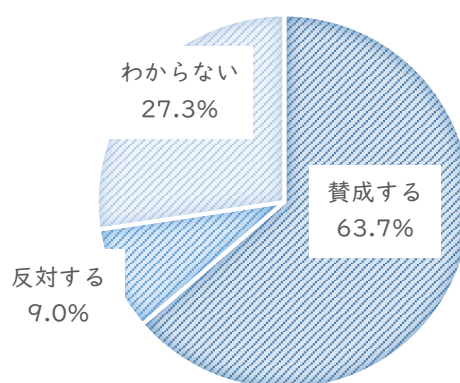
【n=245】

問 13 森林のはたらきをすべてお金に換算することは不可能ですが、日本学術会議がその一部を試算したところ、滋賀県の森林は 6,716 億円の価値があり、県民一人あたり毎年約 50 万円の恩恵を森林から受けていることとなります。

滋賀県では、この森林のはたらきを持続的に発揮させるよう「琵琶湖森林づくり県民税」により様々な取組みを行っていますが、令和 3 年度（2021 年度）以降も「琵琶湖森林づくり県民税」を継続して、琵琶湖と人々の暮らしを支える森林づくりを行うことについて、どのように思いますか。

（回答チェックは 1 つだけ）

項 目	人数(人)	割合
賛成する	156	63.7%
反対する	22	9.0%
わからない	67	27.3%
合計	245	100%

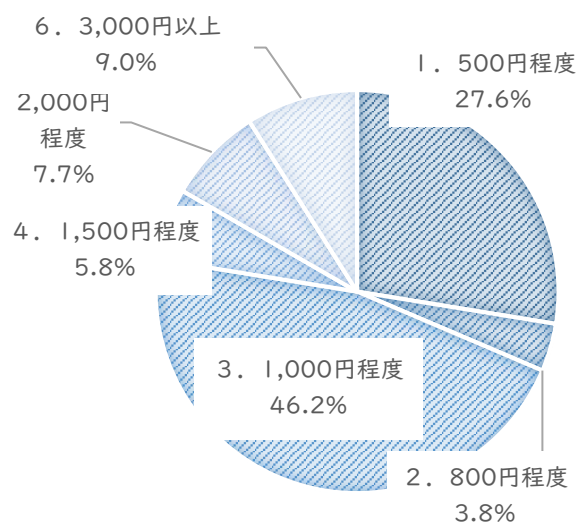


【n=245】

問 14 問 13 で「1. 賛成する」と回答された方におたずねします。1 年間にいくらまでなら負担してもよいと思いますか。

（回答チェックは 1 つだけ）

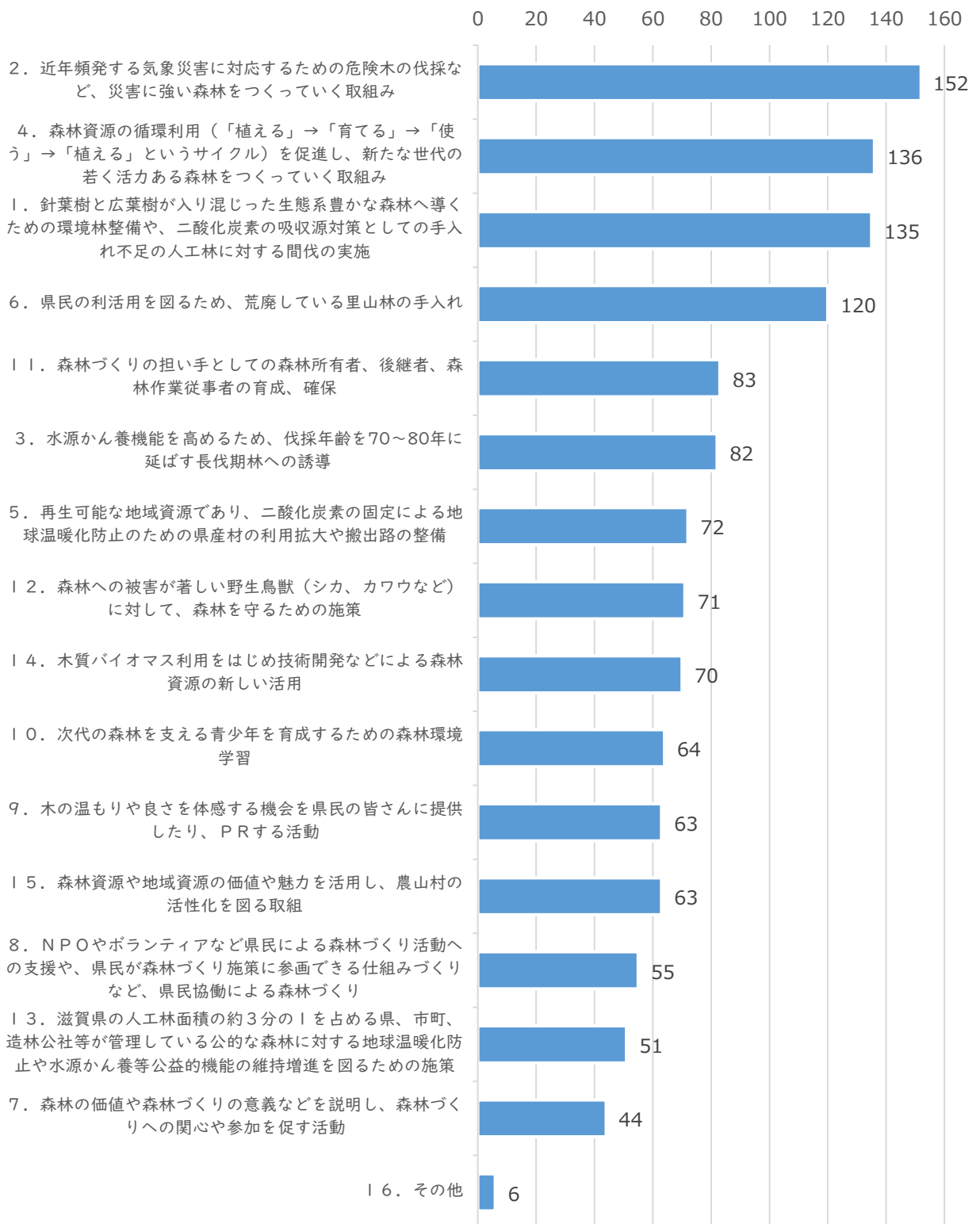
項 目	人数(人)	割合
1. 500 円程度	43	27.6%
2. 800 円程度	6	3.8%
3. 1,000 円程度	72	46.2%
4. 1,500 円程度	9	5.8%
5. 2,000 円程度	12	7.7%
6. 3,000 円以上	14	9.0%
合計	156	100%



【n=156】

問 15 琵琶湖森林づくり県民税の使い道として、特にどの様な森林づくりの分野に充てるのが望ましいとお考えですか。
(回答チェックはいくつでも)

項 目	人数(人)	割合
2. 近年頻発する気象災害に対応するための危険木の伐採など、災害に強い森林をつくっていく取組み	152	62.0%
4. 森林資源の循環利用(「植える」→「育てる」→「使う」→「植える」というサイクル)を促進し、新たな世代の若く活力ある森林をつくっていく取組み	136	55.5%
1. 針葉樹と広葉樹が入り混じった生態系豊かな森林へ導くための環境林整備や、二酸化炭素の吸収源対策としての手入れ不足の人工林に対する間伐の実施	135	55.1%
6. 県民の利活用を図るため、荒廃している里山林の手入れ	120	49.0%
11. 森林づくりの担い手としての森林所有者、後継者、森林作業従事者の育成、確保	83	33.9%
3. 水源かん養機能を高めるため、伐採年齢を70~80年に延ばす長伐期林への誘導	82	33.5%
5. 再生可能な地域資源であり、二酸化炭素の固定による地球温暖化防止のための県産材の利用拡大や搬出路の整備	72	29.4%
12. 森林への被害が著しい野生鳥獣(シカ、カワウなど)に対して、森林を守るための施策	71	29.0%
14. 木質バイオマス利用をはじめ技術開発などによる森林資源の新しい活用	70	28.6%
10. 次代の森林を支える青少年を育成するための森林環境学習	64	26.1%
9. 木の温もりや良さを体感する機会を県民の皆さんに提供したり、PRする活動	63	25.7%
15. 森林資源や地域資源の価値や魅力を活用し、農山村の活性化を図る取組	63	25.7%
8. NPOやボランティアなど県民による森林づくり活動への支援や、県民が森林づくり施策に参画できる仕組みづくりなど、県民協働による森林づくり	55	22.4%
13. 滋賀県の人工林面積の約3分の1を占める県、市町、造林公社等が管理している公的な森林に対する地球温暖化防止や水源かん養等公益的機能の維持増進を図るための施策	51	20.8%
7. 森林の価値や森林づくりの意義などを説明し、森林づくりへの関心や参加を促す活動	44	18.0%
16. その他	6	2.4%



問16 その他、「やまの健康」や「森林づくり」について御意見がありましたらお聞かせください。

【広報について】

●市街地に住んでいると、『森林』や『やま』への意識が『びわこ』や『川』への意識に比べて薄くなってしまっているのが現状と思われる。

緑が多いことも滋賀県の魅力であり、その魅力を滋賀県民だけではなく、県外にもどのようにPRするか考えていく必要があると思う。

●山の中のことは、麓に住んでいる県民からはうかがい知ることができないことが多過ぎて、日頃気にしていませんが、近年の豪雨の時などにその重要性に気づかされます。本来、それでは遅いので、せめて日頃から県民が森や山に興味を持てるような情報開示やイベントの開催をお願いしたいです。

●滋賀県は琵琶湖のイメージが強く、森林についての取り組みが知られていないと思います。知られていないのは存在しない事に近いので、もっと効率的にアピールすべきです。

【林業について】

●県外に山林を所有していますが、荒れ放題。環境保全に対して問題なのは、充分理解しているが、それ以上に、林業で生計が成り立つようにする事が大事であると考えます。ボランティアでは、限りがあり、持続可能とは言えない。

●山の手入れは大変なもの聞いたことがあります。担い手が増えるような施策や制度ができてそれがもっと広がって身近なものとなればいいなと思います。

【やまとの関わりについて】

●子どもが「森のようちえん」のお世話になっています。自然と触れ合う毎日を過ごし、体力もつき、生き物や植物にとっても関心を持ち元気に過ごしています。物心つき始めのころから、こうした生活を身につけることは、とても大切なことだと考えます。こうした幼児教育に滋賀県として認定制度を設け、支援してくださっていることは、非常にありがたいことです。

また、林業の従事者の育成や支援、県民が林業に関心をもてるようにイベントや学習会の機会を増やしてもらったり、身近なところでは、木のおもちゃや調理器具、家具など暮らしの中で活用できる商品の開発や支援にも力を入れて行って欲しいと思います。

●自然環境の重要性は理解しているが、どのように参加すればよいかわからない。

●ちょうど今年、子どもたちが「やまのこ」を体験しました。事前に山、森、木、自然の話の授業で学んでから実際に森に入って実習をしたのをとても喜んでいました。

県内の5年生はうみのこ、6年生は修学旅行ですが、コロナ禍で色々なイベントが縮小傾向にあります。自然の中で広々と水や森林について学ぶ事が出来る&その施設が多数あるのは、滋賀県の大きな強みです。修学旅行時に夜の琵琶湖博物館やプラネタリウムなど。制限はあるかもしれませんが、県内在住ならではの素晴らしさを体験してほしいです。

●子供が鳥好きで山に行って観察したいと言うのですが、なかなか自由に散策できる場所が分かりにくく実施出来ていません。山で活動できる自然観察の森の様な場所が増えると良いと思います。

●高齢化が進み、20~30年後には高齢者が半分以上になってしまいます。将来への環境作りは、環境を破壊してきた私たち高齢者で改善する責任があります。

元気な一般老人は多くいますが、体力的、技術的には若者や職人に劣る所があります。自治体はこの様な部分を補完するために機械化、自動化を提供するべきです。人口減少の今、年寄りが昔のやり方、考えを改め、精神論でなく、機械化、自動化、効率的で若者も興味を持つであろう作業内容、作業方向に今取り組むべきです。

●山の間伐材の使用をもっとすれば良いと思います。また、滋賀県の大学で県内の山で活動しているサークルや団体があるので、そのような団体と地域や行政がつながっていけば良いと思います。また、つながっていける仕組みを作っていって欲しいです。

●簡単に参加できるような、イベントがあればいいなあと思いました。現役をリタイア、セミリタイアした人たちが、自分の健康作りにもつながるし「やまの健康」や「森林づくり」にもなるような、ボランティア活動が身近であればいいのになあと思いました。

【県民税について】

●県民税が琵琶湖森林造りに使われている筈だが、具体的にどう使われているのかよく見えない。PRや県民へのお知らせが不十分なのではないか？植林や森林造りが重要であることはよくわかっており、子供たちにも教えていかねばならないが、十分に実行されているようには思えない。間伐材を使用した製品を購入したりしたいと思うが、余り購入の機会に恵まれない。

●里山、耕作放棄地等の身近な所にも森林県民税の有効活用をお願いします。活用が見える形にして、そこに近隣住民が参加して行けるような促し、機会の提供をお願いします。

【森林政策について】

- 保育作業としての間伐や下刈といったものを強度に行っていくと共に、主伐再造林の実施に向けて、森林管理経営制度による施業を県全体で取り組んでいく必要があると思います。また、荒廃山林については、相続の問題や、金銭的な理由から手付かずになりやすい傾向から、条例や規則等で森林所有者の手入れが行き届くように明記し、できていない場合は料金を課すような厳しい対応をしていく事を望みます。
- 森の中で過ごす活動はとても好きだが、コロナによりここ一年殆ど行えていないのが残念。後世に森や山を健全な状態で引き継げるような政策を引き続きお願いしたいです
- 個人が保有する「やま」の場合は、後継者育成や管理義務を重視させることも大切なことだと思います。「やま」の近代作業機械の素晴らしい事に驚きました。女性の森林関係者が、活躍貢献されて来ている今こそ「やま」に、関心を持ってくれる学習と、催し等を企画させるよう期待します。
- 「やまの健康」や「森林づくり」について、今回初めて知り得たことも多い。ぜひ、今回限りにせず、県の永続的な活動として、積極的に民間企業にも働きかけ、水源涵養林や森林づくりについての支援を依頼して行って欲しい。
- 最近、林業関係で流行っている、自伐型林業に関して、滋賀県はどの程度推進しているのか不明です。伐採適齢期の森林資源の利用促進はもちろんですが、「ただ切ればよい」「ただ植えればよい」というこれまでの林業が抱えている問題をそのままにせず、皆伐の防止、再造林としての広葉樹の植林など、生態系や環境に配慮した森づくりに取り組んで欲しい。
- 空気を綺麗にするためにも森林を活かしていくことは、大切です。そして山を愛する子供たちの育成も大事です。